

平成27年度
(2015年度)

事業報告書

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

平成27年度 事業報告

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

- 名称： 第28回東京国際映画祭
- 主催： 公益財団法人ユニジャパン
(第28回東京国際映画祭実行委員会)
- 共催： 国際交流基金アジアセンター(アジア映画交流事業)
東京都(コンペティション部門)
- 期間： 平成27年10月22日(木)～平成27年10月31日(土)
- 企画： コンペティション、特別招待作品、パノラマ、アジアの未来、
CROSSCUT ASIA #02 熱風! フィリピン、日本映画スプラッシュ、
ワールド・フォーカス、JAPAN NOW、日本映画クラシックス、
寺山修司生誕80年 TERAYAMA FILMS、追悼特集「高倉健と生きた時代」、
ガンダムとその世界、日本のいちばん怖い夜、歌舞伎座スペシャルナイト、
みなと上映会、TIFFCOM 2015、第12回文化庁映画週間 他
- 会場： 六本木ヒルズ(港区)、新宿バルト9・新宿ピカデリー・TOHO シネマズ新宿(新宿区)をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・ホールを使用
- 後援： 総務省／外務省／経済産業省／観光庁／港区／新宿区／
独立行政法人日本貿易振興機構／東京国立近代美術館フィルムセンター／
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団／公益財団法人JKA／
一般社団法人日本経済団体連合会／東京商工会議所／
一般社団法人日本映画製作者連盟／一般社団法人映画産業団体連合会／
一般社団法人外国映画輸入配給協会／
モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
特定非営利活動法人映像産業振興機構／一般社団法人日本映像ソフト協会／
一般財団法人角川文化振興財団／一般財団法人デジタルコンテンツ協会／
一般社団法人デジタルメディア協会／駐日フィリピン共和国大使館／
一般社団法人新宿観光振興協会
- 支援： 文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)／経済産業省
- 補助： 公益財団法人JKA(競輪補助事業)
- オフィシャルパートナー： 木下グループ／日本コカ・コーラ株式会社／キヤノン株式会社／
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
- プレミアムスポンサー： 株式会社WOWOW／アウディジャパン株式会社
- スポンサー： 大和証券グループ／ソニー株式会社／フィールズ株式会社／
ソニーPCL株式会社／株式会社ドコモ・アニメストア／MasterCard／
株式会社ぐるなび／セイコーホールディングス株式会社／株式会社TSUTAYA

コーポレートパートナー：松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／
株式会社 KADOKAWA／日活株式会社／森ビル株式会社／
TOHO シネマズ株式会社／一般社団法人映画演劇文化協会

メディアパートナー：読売新聞／株式会社 J-WAVE／株式会社 InterFM／
株式会社ダウンゴ／スカパーJSAT 株式会社／
ダウ・ジョーンズ・ジャパン株式会社／株式会社テレビ朝日／
LINE 株式会社／BS 日本映画専門チャンネル／ヤフー株式会社／
株式会社 GYAO

フェスティバルサポーター：アサヒビール株式会社／ゲッティイメージズ ジャパン株式会社／
株式会社クララオンライン／株式会社小田急百貨店

【開催概要】

第 28 回東京国際映画祭は、平成 27 年 10 月 22 日（木）から 10 月 31 日（土）まで 10 日間、六本木ヒルズ、及び、新宿地区の 3 会場（新宿バルト 9、新宿ピカデリー、TOHO シネマズ新宿）をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また 12 年目を迎えたマーケット部門（TIFFCOM2015）は、昨年に引き続き合同開催の第 12 回東京国際ミュージックマーケット（12th TIMM）、及び、東京国際アニメ祭 2015 秋（TIAF 2015 Autumn）と共に「JAPAN Content Showcase（JCS）」として展開、会場（港区、ホテルグランパシフィック LE DAIBA）で開催され、好評裡に終了することが出来た。

椎名ディレクター・ジェネラル 3 年目である本年度の映画祭は、昨年に引き続き、大きな委託事業予算を確保できたため、認知度・知名度の更なる向上、上映部門数・上映本数増による鑑賞機会の拡大を図った。具体的には、六本木会場に加え、日本で最も映画人口の多い街である新宿まで会場を拡大した。上映部門としては、従来の部門をきちんと押さえつつ、今の日本映画を代表する作品を海外に紹介する新部門「JAPAN NOW」を創設、2 年目を迎える国際交流基金との共催企画「CROSSCUT ASIA #02 熱風！フィリピン」、ジャパンアニメーション特集「ガンダムとその世界」、「寺山修司生誕 80 年 TERAYAMA FILMS」、追悼特集「高倉健と生きた時代」といった数多くの特集企画を実施した。

連日の六本木ヒルズの賑わいを演出するための施策である「東京映画食堂」「CINEMA MUSIC JAM」、及び、「歌舞伎座スペシャルナイト」も昨年に続き 2 回目の実施となり、いずれも昨年以上にグレードアップ、高い評価を得た。そして、新宿会場では、新宿観光振興協会主催の「新宿芸術天国 2015」のカーペットイベントへの映画祭ゲストの参加もあり、前年以上の賑わいとなった。

その結果、今映画祭の自主企画は 37 企画で、動員数は 238,185 人。前年対比は 106.4%と昨年並みの数字を維持することが出来た。上映作品数も 231 本で、こちらも 200 本台をキープしている。

オープニングセレモニーは、10 月 22 日（木）に TOHO シネマズ六本木ヒルズ内で開催された。今年の司会には新たに羽鳥慎一氏、西尾由佳理氏を起用した。冒頭、来賓の林幹雄経済産業大臣による祝辞をいただき、その後、来賓、各部門の審査委員の紹介、コンペティション部門作品の紹介を行い、ブライアン・シンガー国際審査委員長による挨拶が行われた。そして、今年の TIFF アンバサダーの季葉さん・野村雅夫さんが登壇、公式オープニング作品『ザ・ウォーク』のロバ

ート・ゼメキス監督、プロデューサーのジャック・ラブキ氏を呼び込んだ後、お二人による舞台挨拶が行われ、その後、3D 本編を上映した。

終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、オープニング・パーティーが行なわれた。今年も JCS の最終日である事により、お台場からも多数の参加者があり、大いににぎわいを見せた。

クロージングセレモニー（授賞式）は、10月31日（土）に TOHO シネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、冒頭、今年新設された“ARIGATO（ありがとう）”賞受賞者として、女優の樹木希林氏、新進女優の広瀬すず氏、イラストレーター・俳優のリリー・フランキー氏、映画監督の細田守氏、ゲームプロデューサーの日野晃博氏が登壇、贈賞がなされ、大いに華やいだ。その後、「日本映画スプラッシュ」部門、「アジアの未来」部門の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京グランプリ」はホベルト・ベリネール監督作品『ニーゼ』に、審査員特別賞はケイロン監督の『スリー・オブ・アス』に贈られた。また、「アジアの未来 作品賞」はピムパカー・トーウィラ監督の『孤島の葬列』に、「日本映画スプラッシュ 作品賞」は小路紘史監督の『ケンとカズ』に贈られた。また、昨年から新設された賞である、「WOWOW 賞」にはムスタファ・カラ監督の『カラダールの雪』、「アジアの未来 国際交流基金アジアセンター特別賞」にはデグナー監督（『告別』）が選ばれた。その後、クロージング作品『起終点駅ターミナル』の篠原哲雄監督、主演の佐藤浩市氏、共演の本田翼氏、尾野真千子氏による舞台挨拶、本編の上映が行われた。

終映後、アカデミーヒルズ 49 階タワーホールに会場を移してクロージングパーティーを開催、審査委員メンバー、各賞受賞者等、多数の方が参加し、最後の夜を楽しんだ。

【自主企画】

（1）コンペティション （共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2015 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た 16 作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）による Q&A を行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、6 名（日本人 1 名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京グランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の 6 賞が決まり、10 月 31 日の閉会式会場で発表された。東京グランプリには 5 万米ドル、審査員特別賞には 2 万米ドル、その他の賞に 5 千米ドルが副賞として贈られた。東京グランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金 1 万米ドルが 1 作品に贈られた。そして、昨年にも続き、WOWOW 加入者による選考委員がその映画の感動を世界中のファンと共有したいという考えのもとに選定した WOWOW 賞も発表され、1 万米ドルが 1 作品に贈られた。

- ・東京グランプリ：『ニーゼ』（監督 ホベルト・ベリネール）
 - ・審査員特別賞：『スリー・オブ・アス』（監督 ケイロン）
 - ・最優秀監督賞：ムスタファ・カラ（作品『カラダールの雪』）
 - ・最優秀女優賞：グロリア・ピレス（作品『ニーゼ』）
 - ・最優秀男優賞：ローラン・モラー、ルイス・ホフマン（作品『地雷と少年兵』）
 - ・最優秀芸術貢献賞：『家族の映画』（オルモ・オメルズ監督）
 - ・観客賞：『神様の思し召し』（エドアルド・ファルコーネ監督）
 - ・W O W O W 賞：『カラダールの雪』（ムスタファ・カラ監督）
- 上映本数 16 作品 動員数 16,476 名

（２）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の 1 本目または 2 本目の長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。昨年度より設置。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により 1 作品が選ばれ、賞金 1 万米ドルが贈られた。また、昨年につき、今年も国際交流基金アジアセンターの支援のもと、「国際交流基金アジアセンター特別賞」が国際交流基金アジアセンター特別賞審査委員により 1 作品選ばれた。

- ・作品賞：『孤島の葬列』（監督 ピムパカー・トーウィラ）
 - ・国際交流基金アジアセンター特別賞：デグナー監督（『告別』）
- 上映本数 10 作品 動員数 3,909 名

（３）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100 万円が贈られた。

上映本数 8 作品 動員数 1,947 名
 作品賞：『ケンとカズ』（監督 小路紘史）

（４）特別招待作品

国内未公開の主な話題作品を 8 本厳選し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に貢献した。

上映本数 8 作品 動員数 5,270 名

（５）パノラマ

国内未公開の話題作品を 19 本選定し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に貢献した。

上映本数 19 作品 動員数 5,025 名

(6) ワールド・フォーカス

旧来の「アジアの風」と「ワールドシネマ」部門を合体させたりリニューアル部門。世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 23 作品 動員数 15,035 名

(7) 「CROSSCUT ASIA #02 熱風! フィリピン」

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭のコラボレーション・シリーズ第2弾 三大映画祭で受賞している若き巨匠ブリランテ・メンドーサ監督の特集を中心に、第3期黄金時代に入った最新のフィリピン映画を幅広く上映。好評を得た。

上映本数 10 作品 動員数 2,809 人

(8) 「JAPAN NOW」

現在の日本映画を支える代表的な監督の作品を選定し、海外に対して今の日本映画が持つ大きな可能性と意欲を発信する事を目的とした新しい部門。代表作11本に加え、原田真人監督の特集4作品も上映。連日、ゲストによるQ&Aが行われ、大変好評を博した。

上映本数 16 作品 動員数 2,242 人

(9) 「日本映画クラシックス」

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。公開から30周年を迎えた『乱』4Kデジタル修復版の上映を中心に8作品を上映。往年のファンから新しい映画ファン層まで幅広く集客した。

上映本数 8 作品 動員数 1,007 人

(10) 「寺山修司生誕 80 年 TERAYAMA FILMS」

寺山修司生誕80周年の本年、長編の代表作4作品をデジタル上映。若い映画ファンに受け入れられ、連日、大いに賑わいを見せた。

上映本数 4 作品 動員数 1,139 人

(11) 追悼特集「高倉健と生きた時代」

昨年逝去した、日本映画界を代表する名優・高倉健の没後1年を前に、代表作10本を上映。倍賞千恵子氏、中野良子氏による舞台挨拶も行い、会場前の黄色いハンカチを模したサインボードにはファンからの追悼メッセージが数多く書き込まれた。

上映本数 10 作品 動員数 1,117 人

(12) 「ガンダムとその世界」

36年に渡り人気の衰えない人気アニメーションシリーズである『ガンダム』の特集上映。第1作目『機動戦士ガンダム』より最新作までの計26本を一挙上映。連日、関係者による舞台挨拶、Q&Aが行われ、会場は熱気に包まれた。

上映本数 26作品 動員数 2,631人

(13) 「日本のいちばん怖い夜〜Jホラー降臨」

ハリウッドでもリメイクされたジャパニーズホラー。その代表作を一挙オールナイト上映。最新作の舞台挨拶・上映、Jホラーの歴史を象徴する代表作3作品のトークイベント+上映に加え、当日はシアター内に特設お化け屋敷を設置し、映画鑑賞+αの日本的恐怖体験を味わってもらった。

上映本数 4本 動員数 609名

(14) 歌舞伎座スペシャルナイト

昨年の高評価を受け、今年も実施。日本の伝統芸能の発信地である歌舞伎座にて、歌舞伎俳優・片岡愛之助による舞踊『雨の五郎』の上演と歌舞伎の『勸進帳』を題材とした映画作品である黒澤明監督作品『虎の尾を踏む男達』を上映した。当日は、国内外の多数のお客様をお呼びし、大変な好評を博した。

10月26日(月) 歌舞伎座 動員数 770名

(15) “SAMURAI (サムライ)” 賞授賞式

その歌舞伎座スペシャルナイト内にて、第2回の“SAMURAI (サムライ)” 賞授賞式を行った。受賞者は、山田洋次監督とジョン・ウー監督。当日は、山田監督には吉永小百合氏、ジョン・ウー氏には、映画監督の大友啓史氏が祝福に駆け付け、大いに場が華やいた。

(16) ジョン・ウー監督 第2回“SAMURAI (サムライ)” 賞授賞記念トークイベント

第2回“SAMURAI (サムライ)” 賞を受賞したジョン・ウー監督による、プロの映画監督・制作者を目指す若いクリエイターに向けてのトークイベント。映画を作っていく上での心構えなど興味深い話がなされた。

10月25日(日) アカデミーヒルズ49タワーホール 動員数 352名

(17) 東京映画食堂

昨年、大変好評であった、「東京映画食堂」を今年も実施。東京国際映画祭に来た国内外のお客様に日本の食文化を同時に楽しんでいただく場として、六本木ヒルズアリーナに日本を代表するトップシェフ5名(譚彦彬氏、吉武正博氏、吉野健氏、橋本幹造氏、笹島保弘氏)の特設キッチンカーが登場。今回限りの特別メニューを特別価格で提供。会期中、売り切れメニューも出るなど、大いに賑わいを見せた。

(18) CINEMA MUSIC JAM

昨年好評であった、「CINEMA MUSIC JAM」を更にパワーアップして連日開催。六本木ヒルズアリーナにて、映画音楽を一流ミュージシャンが演奏・歌唱するスペシャルイベントで、クリス・ハート氏、八代亜紀氏、石井竜也氏等、豪華ゲストが連日来場、多いに盛り上がりを見せた。

[共催・提携企画]

(1) 生誕 100 年 オーソン・ウェルズ—天才の発見

生誕 100 年を迎える巨匠・オーソン・ウェルズの、代表作から、今回、発見された未知の傑作まで 11 作品を上映。貴重な機会に世代を超えた映画ファンが連日押しかけ、大変な賑わいを見せた。

10月23日(金)～11月8日(日) 東京近代美術館フィルムセンター大ホール
上映本数 11 作品 動員数 4,031 名

(2) 第 12 回文化庁映画週間

- ①文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会 10月22日(木)／10月25日(日)
優れた文化記録映画 3 作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者 8 名を顕彰した
- ②シンポジウム—MOVIE CAMPUS— 10月24日(土)
第一部は「怪獣から KAIJU へ」と題し、海外でも脚光を浴びる日本の映画的怪獣を現状分析するシンポジウムを開催、第二部では『大怪獣決闘 ガメラ対バラゴン』を上映。

(3) みなと上映会

10月24日(土)／10月25日(日)

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。キンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い秀逸な作品を上映。セリフをその場で吹き替えるライブシネマ上映は、劇場のみならず政策研究大学院大学想海樓ホールでも行った。

(4) TIFF×京都ヒストリカ国際映画祭 京都フィルムメーカーズラボ マスターズセッション

10月28日(水)～30日(金)

世界 19 か国から若手フィルムメーカー 38 名を集め、TIFF 審査委員ほかを講師にした 9 つのセミナーを京都の伝統ある能楽堂等にて開催。

(5) 映像シンポジウム Supported by CINEMA EOS SYSTEM 10月29日(木)

「映画撮影現場のいま」をテーマに日本映画撮影監督協会(JSC)の協力でトークセッションを実施。終了後は盛況の懇親会で締めくくられた。

(6) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム 10月29日(木)

伝統ある日本映画監督協会新人賞の第55回受賞者・小林啓一監督作品『ぼんとリンちゃん』上映の後、同監督と、選考委員であり第51回受賞者でもある大森立嗣監督が同作品や今後の映画作りをめぐってトークを行った。

(7) 映画の未来～バリアフリーから広がる新しい観客との出会い 10月29日(木)

アプリ「UDCast」と機器を使用し『海街diary』の日本語・英語字幕と音声ガイドを提供。視聴覚障害者がいつでも映画が楽しめる時代へのキックオフイベントを開催。

(8) WOWOW 映画工房 200 回記念 みんなで選ぶこの1本 オールナイト上映会 in TIFF

10月23日(金)

『チョコレートドーナツ』、『こわれゆく女』、『ドライブ』、そして短編『ALL FOR CINEMA』をオールナイトで連続上映。冒頭に、斎藤工、板谷由夏他によるトークショーを実施。

(9) スターチャンネル×スカパー！映画部 『シェーン (デジタルリマスター版)』日本初上映

10月25日(日)

『シェーン (デジタルリマスター版)』の12月日本初放送を控え、ジャパンプレミアイベントを開催。上映前には、逢坂剛氏、川本三郎氏によるトークイベントを実施。

(10) コリアン・シネマ・ウィーク 2015 10月23日(金)～10月28日(水)

日本未公開作を含む最新の韓国映画6本の上映と上映作品の監督チン・モヨン氏のティーチンを通じて韓国映画の魅力を広く紹介し、多くの観客の皆様より好評を得た。

(11) ショートショートフィルムフェスティバル&アジア シネマミュージアム―秋の特別上映会―

10月13日(火)～10月18日(日)

SSFF&ASIA 2015 受賞作品を含む全6プログラムを上映。ワークショップも実施。

(12) 2015 東京・中国映画週間 10月22日(木)～10月28日(水)

新作の中国映画17作品を上映。開会式、レセプションパーティーにも多数の方が参加。

(13) MPA セミナー／アニメーションと実写：方向性は異なるか？ 10月26日(月)

セミナーで実施したパネルディスカッションではデジタル時代に対応する著作権保護が論じられた。

(14) 特別提携企画 PFF「PFF アワード 2015」グランプリ受賞作品上映

10月23日(金)

「PFF アワード 2015」グランプリ作品『あるみち』を上映。監督と出演者によるQ&Aも実施。

(15) 「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2015」作品上映 10月28日(水)

SKIP シティ作品の『鉄の子』の上映、及び、監督、出演者による舞台挨拶を実施。

(16) 第5回日本学生映画祭 10月23日(金)

第27回東京学生映画祭、第9回 TOHO シネマズ学生映画祭、第17回京都国際学生映画祭のグランプリ作品6作品を上映。

(17) MPA/DHU フィルムワークショップ 10月25日(日)

アニメ映画監督カルロス・サルダーニャ、紀里谷和明監督らによる講演。ピッチコンペティションでは、事前審査を通過した9名が自作をピッチ、最優秀賞と特別賞が選出された。

(18) 独立映画鍋セミナー／日本映画の海外販路拡大戦略 10月29日(木)

70名の方に参加いただき、大変興味深くエキサイティングなセミナーとなった。

(19) PFF 映画製作特別セミナー Supported by CINEMA EOS SYSTEM

10月29日(木)

1部は柳島克己撮影監督を招いての撮影講座、2部は犬童一心監督を加え、映画製作に関する質問に答える講座を実施。

(20) MPTE AWARDS 2015 10月28日(水)

映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞として、映像制作技術の進化と意欲の向上を目的に実施。今年で第68回を数える事になった。

(21) 第8回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月18日(金)～9月22日(火・祝)

ビートたけしへコメディ栄誉賞を授与。記念の特集上映や豪華アーティストによるリスペクトライブを開催。また、世界各国からの特別招待作品やコンペティション、各種コラボ企画上映などを実施。大盛況のうちに終了した。

(22) 第37回 PFF (ぴあフィルムフェスティバル) 9月12日(土)～9月24日(木)

自主製作映画のコンペティション「PFF アワード」では、平均年齢29.4歳の監督20名を紹介。招待作品部門では、「特集サミュエル・フラワー」「映画内映画」「世界が絶賛した日本の短編たち」「映画のコツ」を上映と講座で展開した。

(23) キネコ国際映画祭 2015 8月11日(火)～8月15日(土)

今年より名称を「キネコ」に変更、会場も渋谷に移行した。戸田恵子さんをはじめ多くのサポーターに見守られるなかスタートした本映画祭は大盛況に終わり、輝かしいスタートをきった。

(24) SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2015 7月18日(土)～7月26日(日)

9日間の開催で9,375人の動員を達成。

(25) 第12回ラテンビート映画祭 10月8日(水)～11月3日(火)

今年は映画の上映や食の展開に加え、テレビドラマを上映。

(26) アラン・ドロンの特集 唯一無二、そしてその分身

10月23日(金)～25日(日)、30日(金)～11月1日(日)

アラン・ドロンの代表作品を上映。最終日には、中原昌也氏を迎え、ドロンの魅力について語ってもらった。

(27) 第9回田辺・弁慶映画祭 11月6日(金)～11月8日(日)

コンペティション作品、招待作品、応援作品等、計18本を上映。コンペティション部門では、応募のあった144作品のうち、予備選考を通過した8作品から各賞を決定した。

(28) ポーランド映画祭2015 11月14日(土)～11月20日(金)

今年で4年目4回目の開催。今までに増して幅広い客層に支持され、盛況であった。

[顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰(アジアの未来 作品賞)。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰(日本映画スプラッシュ 作品賞)。

[運営]

① 自主企画の実施

本年度は、新規部門、リニューアル部門も含めた以下の部門(「コンペティション」「アジアの未来」「日本映画スプラッシュ」「特別招待作品」「パノラマ」「ワールド・フォーカス」「CROSSCUT ASIA」他)を実施した。

② 上映会場、各種会場

六本木地区、及び、新宿地区をメイン会場とした。

・主要上映会場:

TOHO シネマズ六本木ヒルズ(9スクリーン)

新宿バルト9(2～3スクリーン)

新宿ピカデリー(2～3スクリーン)

TOHO シネマズ新宿(2スクリーン)

歌舞伎座

・その他の会場(提携企画等を上映、実施):

国立近代美術館フィルムセンター大ホール、神楽座、お台場シネマメディアージュ、

政策研究大学院大学想海樓ホール、渋谷区文化総合センター、大和田さくらホール、

韓国文化院ハンマダンホール、SKIP シティ、浅草公会堂、東京国立博物館平成館、

浅草文化観光センター、浅草フランス座演芸場東洋館、上野恩賜後援野外ステージ、東京都美術館講堂、アンダーズ東京、TOHO シネマズ日本橋、横浜ブルク 13、梅田ブルク 7、アンスティチュ・フランセ東京、エスパス・イマージュ、角川シネマ新宿、六本木ヒルズ ハリウッドビューティープラザ、六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム、紀南文化会館、大江能楽堂、デジタルハリウッド大学駿河台キャンパス

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニング・レセプションの会場として使用。

「森タワー」：映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：TIFF コミュニティ広場として使用。

「ヒルズカフェ」：TOKYO CINEMA LOUNGE として使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」：連日、各種イベントの実施に使用。

「小田急百貨店新宿本館 12F レストラン街」：

本映画祭の出品作品の紹介等の場として活用。

「新宿アルタ前 特設会場」：新宿芸術天国の会場として使用

③ 入場料金

○オープニング／クロージング	一般：2,500 円	学生前売・当日：2,000 円
○特別招待作品	一般：2,500 円	学生前売・当日：2,000 円
○パノラマ	一般：2,000 円	学生前売：1,500 円 学生当日：500 円
○ワールド・フォーカス	一般：1,500 円	学生前売：1,000 円 学生当日：500 円
○コンペティション	一般：1,300 円	学生前売：1,000 円 学生当日：500 円
○東京グランプリ受賞作品	一般：1,300 円	学生前売：1,000 円 学生当日：500 円
○アジアの未来、日本映画スプラッシュ、CROSSCUT ASIA、観客賞受賞作品	一般：1,300 円	学生前売：1,000 円 学生当日：500 円
○JAPAN NOW（公開中、近日公開作品）	一般：1,800 円	学生前売：1,500 円 学生当日：500 円
○JAPAN NOW（上記以外の作品）	一般：1,300 円	学生前売：1,000 円 学生当日：500 円
○日本映画クラシックス、寺山修司特集、高倉健特集、みなと上映会、監督協会上映、 『シェーン』、PFF アワード作品、SKIP シティ作品	一般：1,000 円	学生前売：800 円 学生当日：500 円
○ガンダムとその世界	一般：1,300 円	学生前売：1,000 円 学生当日：500 円
○ガンダムとその世界(MX4D)		上記料金+1,200 円
○WOWOW 映画工房 AN 上映	一般：4,500 円	学生前売・当日：4,500 円
○日本のいちばん怖い夜（AN 上映）	一般：3,996 円	学生前売・当日：3,996 円
○歌舞伎座スペシャルナイト	一般・学生（前売り・当日）：10,000 円	
○日本学生映画祭	一般・学生（前売り・当日）：1,000 円	

④ 会期中のイベント

(六本木ヒルズ アリーナイベント)

○オープニング・イベント：10月22日(木)

OP レッドカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

○デイリーでのイベント開催：会期中、以下のイベントを連日開催した。

・東京映画食堂 会期中開催

・CINEMA MUSIC JAM 会期中開催

・東京映画食堂 プレスデイ(10月24日)

・『KAMPAI! FOR LOVE OF SAKE』日本酒イベント(小西未来監督、久慈浩介)

(10月26日)

・「99分、世界美味めぐり」関連イベント(10月26日)

・『劇場版 MOZU』イベント(西島秀俊、北野武、香川照之、真木よう子、伊勢谷友介、松坂桃李、池松壮亮、杉咲花、羽住英一郎監督)(10月27日)

・『桜ノ雨』イベント(山本舞香、広田亮平、久松郁実ほか)(10月30日)

(TOKYO CINEMA LOUNGE)

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェを TOKYO CINEMA LOUNGE とし、パスホルダー向けのホスピタリティ空間とした。また、夜の時間帯には、DJ イベント TIFF NIGHT 等を行った。

(TIFF コミュニティ広場)

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」を TIFF コミュニティ広場と称して、一般来場者の寛ぎスペースとして演出した。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。インフォメーションブースも設置、サイン会等も活発に行われた。

⑤ インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズの大屋根プラザに設置。人も配置した上で、デジタルモニター設置により最新の上映情報等を流すことが出来た。

⑥ ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校との協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑦ オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、エコバッグを販売した。

[広報活動]

- ① 新聞広告・・・「読売新聞」紙上
- ② 劇場予告・・・首都圏の主要劇場 9月19日より
- ③ プレス PASS・・・取材者向けの ID 登録。
取材エリア、プレスセンターへの入場及び P&I 上映で利用
- ④ 記者会見
 - 第1回記者会見 2015年7月28日 六本木ヒルズ・タワーホール
 - 第2回記者会見 2015年9月29日 六本木ヒルズ・タワーホール
 - 会期中の記者会見 六本木ヒルズ内ホール、TOHO シネマズ劇場内
 - 受賞者記者会見 2015年10月31日 TOHO シネマズ六本木ヒルズ SC6
- ⑤ 宣伝素材・・・ティザーチラシ、本チラシ（全上映スケジュール入り）、
「ガンダムの世界」チラシ、開催概要、公式プログラム、
公式記録、ポスター、記者会見資料
- ⑥ パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への
特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など

紙媒体（新聞・雑誌）	合計	484 媒体
電波媒体（TV・ラジオ）	合計	173 媒体
ネット媒体	合計	14,091 媒体
海外広報：海外媒体合計		8,873 媒体
パブリシティ合計		23,621 媒体

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。
- ⑦ 公式サイト・・・オフィシャル動画、ニュースとしてニコニコ動画チャンネル、映画コムニュース、Yahoo!GyaO 特集など外部サイトとの連携強化。SNS での展開強化でアクセス数増を達成した。
- ⑧ Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。
公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。
- ⑨ イメージネット・・・TIFF の出品作品の素材を提供しているサービス。
登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真や予告編映像等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

会期前の10月22日(木)より最終日の10月31日(土)まで、六本木ヒルズ内の大型広告スペースにおいて、オープニングクロージング作品の大型ビジュアルや映画祭ロゴ、また映画祭と各作品のポスター等を掲出。会場を華やかに盛り上げた。

- ① 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- ② メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、メトロハット・ビジョン
- ③ 66 プラザ 水景、ポスターボード
- ④ 大屋根プラザ 吊り下げバナー
- ⑤ けやき坂 歩道照明バナー

(六本木地区内の広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月5日(月)から10月31日(土)の27日間の長期に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 150枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 3,000枚
- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 10,500枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 1,500枚
- ⑤ 都バス定期券発売所 チラシ設置 1,500枚

[東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。第28回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

○みなと上映会区民などの家族を対象にした上映会の開催

10月24日(土)／10月25日(日)
TOHO シネマズ六本木ヒルズ (入場者数 204名)

政策研究大学院大学 想海樓ホール (入場者数 237名)

○観客賞

観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞 (賞金1万米ドル)
授賞式 10月31日(土) TOHO シネマズ六本木ヒルズ SC2
受賞作品『神様の思し召し』
登壇者 エドアルド・ファルコーネ監督

○街頭フラッグの掲出

10月17日(金)～10月31日(土)
けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、芋洗坂商店街、六本木材木町商店街にて合計220枚

○みなとクリーンナップ・プロジェクト

10月17日（土）午前9時30分受付開始

六本木ヒルズ会場、六本木駅、麻布十番駅周辺と会場までの道路沿いの清掃を行った。

○告知記事掲載

港区の Kiss ポート誌 9月号にみなとクリーンナップ募集記事、10月号にみなと上映会記事を掲載し、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計15万枚を配布した。

2. TIFFCOM 開催事業

「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の制作運営（経済産業省の委託事業）

■TIFFCOM 2015 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第28回東京国際映画祭
- ③ 同時開催： 第12回東京国ミュージックマーケット（12th TIMM）
東京国際アニメ祭 2015 秋（TIAF 2015 Autumn）
- ④ 日程： 平成27年10月20日（火）～10月22日（木）
- ⑤ 会場： ホテルグランパシフィック LE DAIBA、シネマメディアージュ

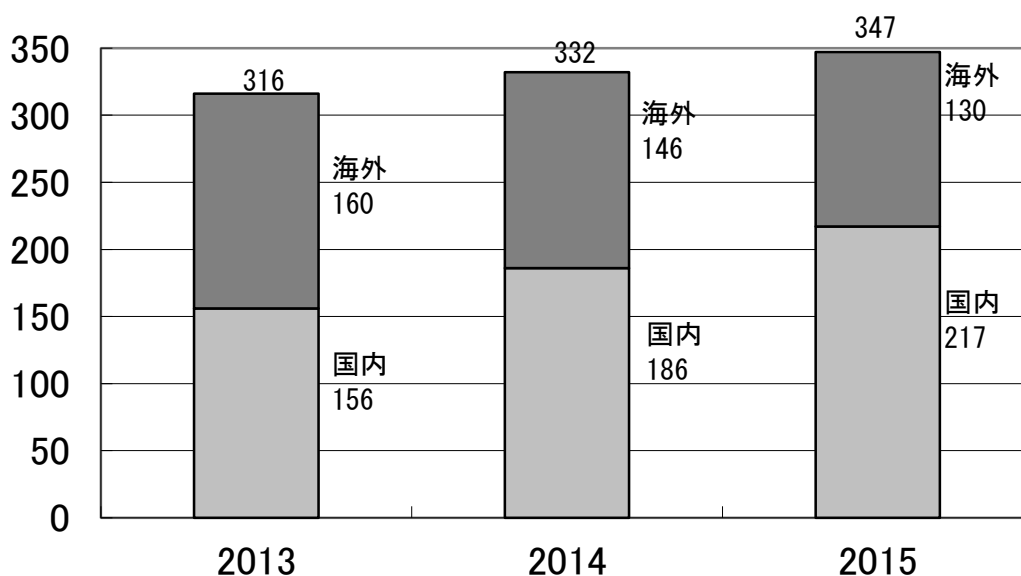
■TIFFCOM 2015 成果報告

TIFFCOM 2015 は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットである TIMM（第12回国際ミュージックマーケット）、アニメ企業の出展による TIAF（東京国際アニメ祭 2015 秋）、と同会場で開催し、「Japan Content Showcase」（JCS）のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOM として過去最高となる 347 の出展団体が参加し、バイヤー登録は、昨年対比 24%増の 1433 人、商談件数も 6,663 件と昨年対比約 17%伸長した。

【出展者の状況】

■2015 年度 出展団体数（海外：130／国内：217 合計：347）



■国・地域別出展団体数

アジア	110	日本	217	南アメリカ	1
カンボジア	12	ヨーロッパ	13	ブラジル	1
中国	7	エストニア	1	オセアニア	1
香港	3	フランス	1	オーストラリア	1
インド	1	ラトビア	1	中東	1
インドネシア	5	マケドニア	1	トルコ	1
韓国	37	ロシア	1	アフリカ	2
マレーシア	12	スイス	1	カメルーン	1
シンガポール	3	イギリス	7	コートジボワール	1
台湾	23	北アメリカ	4		
タイ	7	アメリカ	4		

アジア 前年対比 106% (前年 104)、日本 前年対比 117% (前年 186)

ヨーロッパ 前年対比 50% (前年 26)、北米 50% (前年 8)、南米 17%(前年 6)

中東 前年対比 100% (前年 1)、アフリカ 200% (前年 1)

【バイヤーの状況】

■2015年度 : 1433人 ※ 2014年度より 24%増加

■国・地域別バイヤー登録数

アジア	593	ベトナム	20	チェコ共和国	2
ブルネイ	1	日本	638	ノルウェー	1
カンボジア	3	ヨーロッパ	91	北米	81
中国	80	ベルギー	53	カナダ	8
香港	104	エストニア	1	アメリカ	73
インド	20	フィンランド	1	南米	17
インドネシア	11	ルーマニア	1	ブラジル	7
カザフスタン	1	フランス	32	ペルー	1
韓国	141	ギリシャ	1	メキシコ	6
マレーシア	16	ドイツ	17	アルゼンチン	1
ネパール	1	ハンガリー	2	チリ	2
ラオス	3	ロシア	3	オセアニア	8
マカオ	1	イタリア	2	オーストラリア	7
フィリピン	20	スウェーデン	1	ニュージーランド	1
パキスタン	1	イギリス	12	中東	1
シンガポール	28	スイス	1	イラン	1
スリランカ	1	ポーランド	6	アフリカ	4
台湾	94	スペイン	4	エジプト	2
タイ	47	アゼルバイジャン	2	南アフリカ	2

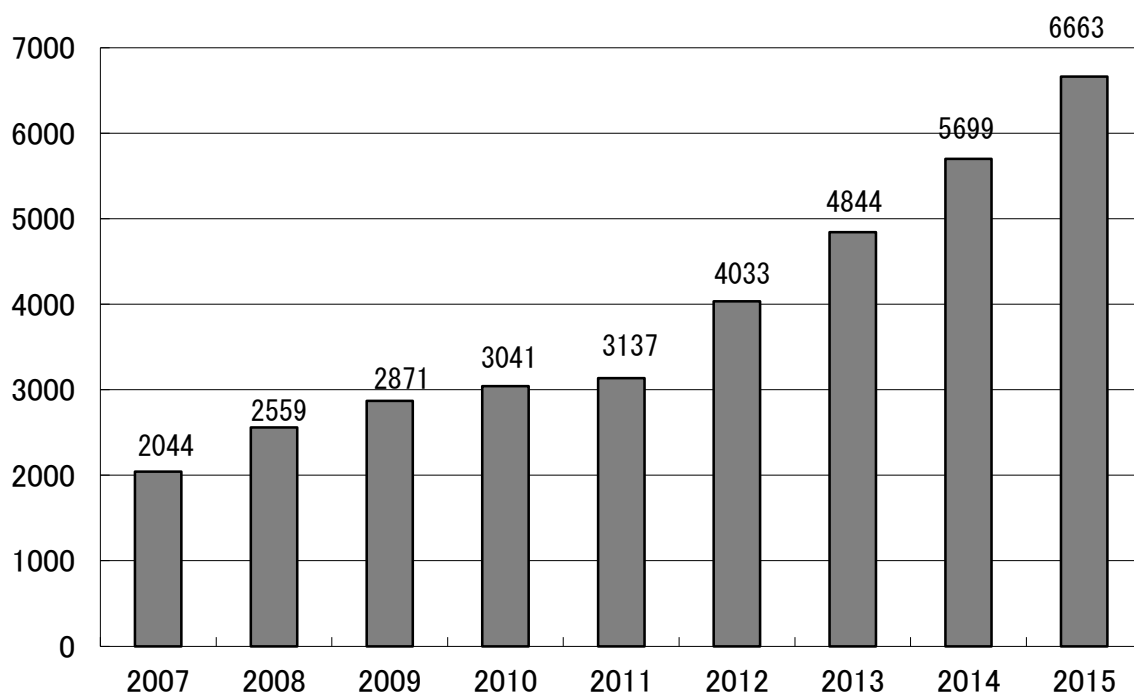
アジア 前年対比 130% (前年 457)、日本 前年対比 109% (前年 584)
 ヨーロッパ 前年対比 172% (前年 53)、北米 169% (前年 48)、南米 425%(前年 4)
 オセアニア 前年対比 73% (前年 11)、中東 50% (前年 2)、アフリカ 400% (前年 1)

2015 年の特徴として、インターネットを取り扱うバイヤーが増加したことがあげられる。アンケートより全登録バイヤーの約 2 割がインターネットを取り扱っている状況が浮かびあがった (前年に実施した同じ調査対比 154%の伸長)。VOD ビジネスの広がりが要因として考えられる。

【商談結果の状況】

■2015 年度 : 総契約金額 : \$52,720,000

■商談件数 : 6663 件



【JCS セミナーの状況】

■セミナー数 全 27

■セミナー総来場者数 2,787 名 (2014 年 1,759 名 前年対比 158%)

主な TIFFCOM 関連セミナー

「見えてきた動画配信マーケットの近未来」

「Cool Japan with Locals @ JCS」

「開拓せよ。これが中国市場の扉を開ける鍵だ」

「日本の国際共同製作映画支援について」

3. 国際振興支援事業

【映画祭出品&日本映画輸出支援】

(1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援事業（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■ 平成 27 年度支援実績

- ① 総採択数 85 件（平成 26 年度実績 66 件）
- ② 総申請件数 153 件（同上 129 件）
- ③ 支援総額 22,160,825 円（同上 21,041,409 円）

■ 主な支援作品

- | | |
|--------------------|--|
| ・ カンヌ国際映画祭 | 『岸辺の旅』（黒沢清監督）
* ある視点部門 監督賞受賞 |
| | 『海街 diary』（是枝裕和監督） |
| ・ モスクワ国際映画祭 | 『きみはいい子』（呉美保監督）
* 最優秀アジア映画賞（NETPAC 賞）受賞 |
| ・ アヌシー国際アニメーション映画祭 | 『百日紅～Miss Hokusai～』（原恵一監督）
* 審査委員賞受賞 |
| ・ トロント国際映画祭 | 『ひそひそ星』（園子温監督）
* 最優秀アジア映画賞（NETPAC 賞） |
| ・ ロカルノ国際映画祭 | 『ハッピーアワー』（濱口竜介監督）
* 最優秀女優賞 |
| ・ モントリオール世界映画祭 | 『合葬』（小林達夫監督）
『ディアーディアー』（菊池健監督） |
| ・ ベルリン国際映画祭 | 『クリーピー』（黒沢清監督）
『ウィータ・ラカーマヤ』（泉原昭人監督） |

(2) 日本映画・映像コンテンツの輸出支援事業（文化庁の委託事業）

■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

- ① カンヌ国際映画祭マーケット（平成 27 年 5 月 13 日～22 日）
* JETRO との共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭マーケット（平成 27 年 6 月 17 日～19 日）
・ 6 月 18 日（木）「Japan Party」を開催。

- ③ トロント国際映画祭マーケット（平成 27 年 9 月 4 日～13 日）
 - ・ 9 月 14 日（月）「ジャパン・フィルム・ナイト」を開催。
- ④ ベルリン国際映画祭マーケット（平成 28 年 2 月 11 日～19 日）
- ⑤ 香港国際映画祭マーケット（平成 28 年 3 月 14 日～3 月 17 日）
 - * JETRO との共同出展

【国際共同製作支援】

（1）国際共同製作支援事業（経済産業省の委託事業）

■国際共同製作認定

① 実施概要

- ・ 応募件数： 9 件
- ・ 認定件数： 8 件
- ・ 文化庁支援採択件数： 4 件

・ 文化庁支援採択企画

	区分	作品名	団体名	共同製作国
1	アニメ	海獣の子供	(株)美よんどしい	マレーシア
2	劇映画	世界でいちばん小さな海	(株)ハーク	台湾
3	劇映画	ライオンは今夜死ぬ	(有)ピターズエンド	フランス
4	劇映画	Lovers on Borders	(株)オフィス北野	ポルトガル

② 国際共同製作認定のための検討委員会の開催

- ・ 日 程： 平成 27 年 8 月 6 日（木）
- ・ 会 場： ユニジャパン会議室
- ・ 検討委員：

石川 光久	プロダクション I.G 株式会社 代表取締役
井関 惺	株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
華頂 尚隆	一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
富山 省吾（委員長）	日本アカデミー賞協会 事務局長
堀越 謙三	有限会社ユーロスペース 代表取締役
槇田 寿文	特定非営利活動法人映像産業振興機構 事務局次長
南 雅彦	一般社団法人日本動画協会 常務理事 株式会社ボンズ 代表取締役社長

■TIFFCOM 2015 国際共同製作イベント

国際共同製作イベントでは韓国映画振興委員会（KOFIC）と「KO-PRODUCTION in TOKYO 2015」を開催。韓国から、日本との共同製作企画を持参したプロデューサー5 組が参加した。期間中は日本の業界関係者との個別ミーティングや、共同製作に関するセミナー等を実施した。

① 実施内容

- ・主催： 経済産業省、公益財団法人ユニジャパン
- ・日程： 平成 26 年 10 月 20 日～22 日
- ・会場： ホテル・グランパシフィック LE DAIBA

② 参加企画及びプロデューサー

- ・韓国企画

	企画	監督	プロデューサー	会社
A	夏のワルツ	TBD	イ・ウンギョン	Zoa Films
B	開花写真館	ジョン ゲス	チャン・ソジョン	Film Dorothy
C	江戸密使	チョン・ユンス	キム・ヒヨン	K-Dragon Pictures
D	伊丹潤の海	チョン・ダウン	キム・ジョンシン	giraffe pictures
E	最悪の女	キム・ジョングァン	クァク・ヨンス	INDIESTORY INC

(2) アジア地域におけるコンテンツビジネス連携促進支援事業運営

(経済産業省の委託事業)

平成 26 年度に引き続き、市場拡大が見込まれるインドにおいて、我が国コンテンツ産業の現地進出の促進を目的として実施。10 月に東京で開催された Japan Content Showcase に合わせて、インドからアニメ制作、玩具メーカー、子供向けケーブルテレビ局など 5 社 6 名のエグゼクティブを招聘し、ライセンス、キャラクタービジネス事業者を対象にしたセミナー及びネットワークイベントを開催した。また、招聘者による在京企業訪問も行った。

■セミナー

① 実施日程

- ・日程： 平成 27 年 10 月 20 日（火）
- ・会場： ホテル・グランパシフィック Le Daiba（JCS 会場）

② 登壇者及び講演内容：

Ratham Sam George (Head - APAC : Toonz Animation India Pvt. Ltd.)

「Toonz Animation のアニメ制作～キャラクタービジネス展開を見据えて～」

John Baby Kallinkal (CEO: Funskool India Ltd.)

「インドにおけるキャラクタービジネス、玩具ビジネスの実態」

Jiggy George (CEO: Dream Theatre Pvt. Ltd.)

「ケーススタディから学ぶ、インドにおける日本のキャラクタービジネス展開」

Ashutosh Parekh (Director of South Asia: Turner International India Pvt. Ltd.)

「インド・キッズチャンネルとキャラクターの流行について」

■マッチングイベント

① 実施日程

- ・日程：平成27年10月21日（水）、22日（木）
- ・会場：ホテル・グランパシフィック Le Daiba（JCS 会場）

② インド側参加者：

Ratham Sam George (Head - APAC : Toonz Animation India Pvt. Ltd.)
John Baby Kallinkal (CEO: Funskool India Ltd.)
Philip Royappan (Marketing Manager : Funskool India Ltd.)
Jiggy George (CEO: Dream Theatre Pvt. Ltd.)
Ashutosh Parekh (Director of South Asia: Turner International India Pvt. Ltd.)
Suhas Sundar (CEO: Nihodo Media Pvt. Ltd.)

③ 日本側参加企業：

アスミック・エース株式会社、株式会社タツノコプロ、株式会社ランドマック R&D、株式会社ディーエルイー、株式会社電通、スタジオきんぎょアニメ制作スタジオ、読賣テレビ放送株式会社東京支社、1st PLACE 株式会社、東京コンテンツインキュベーションセンター（計9社）

■会社訪問

① 実施日程：平成27年10月21日（水）、22日（木）

② インド側参加者：

Ratham Sam George (Head - APAC : Toonz Animation India Pvt. Ltd.)
John Baby Kallinkal (CEO: Funskool India Ltd.)
Philip Royappan (Marketing Manager : Funskool India Ltd.)
Jiggy George (CEO: Dream Theatre Pvt. Ltd.)
Ashutosh Parekh (Director of South Asia: Turner International India Pvt. Ltd.)
Suhas Sundar (CEO: Nihodo Media Pvt. Ltd.)

③ 訪問企業：

株式会社グッドスマイルカンパニー、株式会社 MAGES.、株式会社ブシロード（計3社）

(3) 日中韓学生アニメーション共同制作等事業の実施（文化庁の委託事業）

日中韓の芸術系大学等の学生間によるアニメーション分野の共同制作等を実施し、3か国の青少年の文化交流の促進に寄与する取り組みを行った。

7月の日中韓3か国の芸術系大学3校（各国1校ずつ）での国際共同制作では、3か国混成の5チームが、「Meet」のテーマの下、3分程度のアニメーションを作成した。12月には、国際共同制作の作品発表に併せ、3か国の若手作家の作品上映や、3か国6校（国際共同制作に参加した学校に各国芸術大学から更に1校ずつ参加・計6校）の教員によるシンポジウム、各学校の作品上映、また、学生主催のラウンドテーブル（互いの作品に対し意見交換を行う取り組み）を実施した。

(1) 概要

■共同製作（Co-Work）

- ・会 期：平成27年7月15日（水）～25日（土）
- ・会 場：東京藝術大学大学院映像研究科校舎（神奈川県横浜市）
- ・参加校：東京藝術大学、中国伝媒大学、韓国芸術総合学校

■上映会及びシンポジウム等（日中韓学生アニメーションフェスティバル2015）

- ・会 期：平成27年12月26日（土）～27日（日）
- ・会 場：金沢21世紀美術館シアター21（石川県金沢市）
- ・参加校：東京藝術大学、金沢美術工芸大学、中国伝媒大学、北京電影学院、韓国芸術総合学校、中央大学
- ・後 援：金沢市

(2) 共同制作詳細

■共同製作（Co-Work）完成4作品（作品テーマ「Meet」）

『OIOI』、『SARADANCE』、『PIECE MEET PEACE』、『The Harmony』、『Sparkle』

■共同製作（Co-Work）参加／指導教員

- ・東京藝術大学
岡本美津子 教授、伊藤有壱 教授、山村浩二 教授、布山タルト 教授、他
- ・中国伝媒大学
JIA Xiuqing 教授、LIA Dayu 教授、ZHANG Zhihui 講師
- ・韓国芸術総合学校
PARK Sehyung 教授、LEE Jung Min 准教授、

(3) 上映会詳細

■上映会及びシンポジウム等（日中韓学生アニメーションフェスティバル 2015）実施内容

【12月26日（土）】

① 上映会&トークプログラム

- ・「中国現代アニメーションセレクション」

～中国若手作家たちのファンタスティック・ワールド～ [10:10～11:30]

上映作品：『大きな手、大きな手、もっともっと大きく』（2012）『嘘をつく時じゃない』（2014）

『Missing one player』（2015）、『霜降』（2011）『芒種』（2009）『穀雨』（2013）

『処暑』（2014）『大寒』（2015）、『コップの中の子牛』（2014）、『夕化粧』（2012）

- ・中国アニメーション監督トーク [11:30～12:00]

登壇者：朱彦潼（シュ・ゲンドウ）監督、胡ゆえんゆえん 監督

- ・韓国長編アニメーション『ウリビョル1号とまだら牛』 [12:30～13:50]

- ・韓国アニメーション監督トーク [13:50～14:20]

登壇者：チャン・ヒュンユン監督

② シンポジウム [14:30～16:30]

- ・「映像表現分野における国際的教育の在り方」

登壇者：GAO Weihua（中国伝媒大学アート&デジタルアーツ学院アニメーション専攻主任教授・同学院院長補佐）、LI Jianping（北京電影学院アニメーション学院院長・教授）、PARK Se Hyung（韓国芸術総合学校 映像院アニメーション学科教授）、KIM Jae Woong（韓国中央大学 先端映像大学院教授）、岡本美津子（東京藝術大学大学院映像研究科研究科長・同アニメーション専攻教授）、鈴木康雄（金沢美術工芸大学 美術工芸学部 デザイン科視覚デザイン専攻教授）

③ 成果発表会 [16:30～17:30]

- ・日中韓学生アニメーション交際共同制作（Co-Work）2015 成果発表会

④ レセプション [18:00～20:30]

- ・金沢 21 世紀美術館 カフェレストラン "Fusion21"にて開催

【12月27日（日）】

① 上映会 日中韓学生アニメーションシアター

- ・東京藝術大学（日本） [10:00～11:00]

上映作品：『超ラジオ体操』、『櫻本箒製作所』、『就活狂想曲』、『BONNIE』、『花と嫁』、

『夜ごはんの時刻』、『きつね憑き』、『I'm here』

- ・ 韓国芸術総合学校（韓国） [11:00～12:00]

上映作品：『HOME SWEET HOME』、『Small Island』、『Dis COVERS』、『SSIEUM』、
『My deer friend』、『Why?』、『Material Girl』

- ・ 中国伝媒大学（中国） [12:00～13:00]

上映作品：『Happy Anniversary』、『Lion Dance』、『Generating』、『Waiting for the Elevator』、
『TRISTA』、『The Swing Journey』、『Melody of Zen』、『Finger City』、
『Little Bird, Little Bird』

② 上映会 日中韓学生アニメーションシアターⅡ

- ・ 中央大学（韓国） [14:00～15:00]

上映作品：『JAMJI Flower (clitoria games)』、『A barber in a bald town』、
『Dear My Jolly Neighbors』、『Paradise』

- ・ 北京電影学院（中国） [15:00～16:00]

上映作品：『Eagles and chickens』、『BLOOM』、『Supermarket』、『Down to Earth』、『Trace』、
『The Sea』、『Picking Dream』、『In the ticket booth』

- ・ 金沢美術工芸大学（日本） [16:00～17:00]

上映作品：『LOTOSCOP』、『よあけの手紙』、『momentorip』、『よだかの星』、『KUROKO』、
『ふたつめ』、『MY COLOR』、『TO-GENKYO』、『synclo』

③ 学生交流ラウンドテーブル [17:30～19:00]

学生参加大学：

東京藝術大学／金沢美術工芸大学／韓国芸術総合学校／中央大学／中国伝媒大学／北京電影学院

■上映会及びシンポジウム等（日中韓学生アニメーションフェスティバル2015）参加教員

東京藝術大学（岡本美津子、布山タルト）、金沢美術工芸大学（鈴木康雄、鈴木浩之）、
韓国芸術総合学校（LEE Jung Min、PARK Sehyung、JOO Wansoo）、
中央大学（KIM Jae Woong、PARK Dallim）、中国伝媒大学（GAO Weihua）、
北京電影学院（LI Jianping）

■上映会 実績

- ・ 入場・参加人数：

12月26日（土） 340人／12月27日（日） 389人／2日間合計：729人

【人材育成】

(1) 国際コンテンツビジネスプロデューサー育成事業（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「若手人材発掘育成・国際ネットワーク構築事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する海外フィルムスクール（大学院）への留学生に対する支援、国際的なコンテンツビジネスを手がける海外企業等における実務研修の実施、セミナーやワークショップの実施、ネットワーキングイベントの実施、人材育成に関連する調査等を行った。

■長期留学支援事業

① 対象となるフィルムスクール（大学院）

- ・ American Film Institute (AFI Conservatory)
- ・ Columbia University in the City of New York, School of the Arts
- ・ New York University, Tisch School of the Arts
- ・ University of California, Los Angeles, School of Theater, Film and Television
- ・ University of Southern California, School of Cinematic Arts
- ・ University of Texas at Austin, Department of Radio-Television-Film
- ・ Loyola Marymount University, School of Film and Television
- ・ The National Film and Television School
- ・ London Film School

② 対象となるコース

- ・ プロデュースコース
- ・ プロダクションコース
- ・ 脚本コース

③ 平成 27 年度支援対象者

- ・ AFI Conservatory, Producing Discipline（在学生）1 名
- ・ UCLA School of Theater, Film And Television, Producers Program（在学生）1 名
- ・ USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program（在学生）1 名

④ 国際人材育成委員会

支援対象者の選定や助言を行ってもらうために、コンテンツ業界の実務経験者を中心とした有識者からなる国際人材育成委員会を設置し全 2 回の委員会（うち 1 回は審査会として実施）を開催

- ・ 富山 省吾（日本アカデミー賞協会 事務局長）
- ・ 北谷 賢司（エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 特別顧問／金沢工業大学 虎ノ門大学院 教授／日本大学 芸術学部 客員教授）
- ・ 鈴木 英夫（東映株式会社 執行役員／宣伝部長）
- ・ 土川 勉（前 株式会社角川大映スタジオ 取締役）
- ・ 堀 義貴（株式会社ホリプロ 代表取締役社長）
- ・ 松岡 宏泰（東宝東和株式会社 代表取締役会長／東宝株式会社 取締役）

- ・ 山下 勝 (青山学院大学 経営学部 教授)
- ・ 山本 一郎 (松竹株式会社 メディア事業部)
- ・ 平井 淳生 (経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長)
- ・ 西村 隆 (公益財団法人ユニジャパン 管理部長)

■海外企業実務研修の実施

① 実務研修実施先となる海外企業

- ・ 国際的なコンテンツビジネスに関連した業務を行っており、プロデューサーとして必要な実務経験を得ることができる海外のコンテンツビジネス関連企業や制作現場

② 研修内容

- ・ 市場調査、マーケティング、プロモーション、脚本開発、映画製作、テレビ番組製作、デジタルコンテンツ製作、アニメーション製作といった、国際的なコンテンツビジネスに関連する実務に携わる研修

③ 平成 27 年度研修実施先

- ・ Warner Bros. Home Entertainment Inc. (マーケティング及びプロダクション部門における業務) 1 名
- ・ LBO Productions (映画『Ghost in the Shell』の撮影現場における業務) 1 名

■セミナー及びワークショップの実施

① 国際コンテンツビジネスフォーラム

コンテンツビジネスに携わる業界関係者やコンテンツビジネスに興味関心のある学生及び若手社会人等を主な対象に、国際コンテンツビジネスの最新動向を把握し、日本のコンテンツを国際展開していくための方法について検討するとともに、そこで必要とされる人材像とその育成方法を探ることをテーマにした 4 セッションからなるフォーラムを実施

- ・ 日 程：平成 28 年 2 月 27 日 (土)
- ・ 会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
- ・ 参加者：204 人

② グローバルコンテンツのマーケティング戦略ワークショップ

実際に海外とのビジネスに関わっている日本のコンテンツビジネス関係者を主な対象として、ハリウッドにおけるエンタテインメントマーケティングの手法やローカルプロダクション戦略といった実践的なテーマに基づくディスカッションを中心としたワークショップを実施

- ・ 日 程：平成 28 年 2 月 28 日 (日)
- ・ 会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
- ・ 参加者：37 人

■ネットワーキングイベントの実施

① 国際コンテンツビジネスフォーラム交流会

国際コンテンツビジネスフォーラムの開催後に、登壇者や参加者による情報交換や人的ネットワーク構築等を目的とした交流会を実施

- ・ 日 程：平成 28 年 2 月 27 日（土）
- ・ 会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
- ・ 参加者：75 人

② グローバルコンテンツのマーケティング戦略ワークショップ交流会

グローバルコンテンツのマーケティング戦略ワークショップの開催後に、登壇者や参加者による情報交換や人的ネットワーク構築等を目的とした交流会を実施

- ・ 日 程：平成 28 年 2 月 28 日（日）
- ・ 会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
- ・ 参加者：34 人

■人材育成調査の実施

① プロデューサー育成に関連した海外教育機関調査

これからのプロデューサー人材育成方法等について検討するために、コンテンツ分野だけでなく、先端技術分野やデザイン分野におけるリーダーシップ教育やマネジメント教育、アントプレナー教育等も対象とした海外教育機関に関する調査を実施

② 海外フィルムスクール情報の翻訳調査

既存のフィルムスクールにおいて映画・映像以外の分野を扱っているコースや、非英語圏も含めた世界の有力なフィルムスクール等の特徴やカリキュラム等に関する調査を実施

(2) 「第 37 回 PFF (ぴあフィルムフェスティバル)」の共催

(一般社団法人映画演劇文化協会の補助事業)

■実施内容

① 日程：平成 27 年 9 月 12 日（土）～9 月 24 日（木）＊月曜休館

② 会場：東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール、小ホール

③ 最終審査員：

- ・ 奥田 瑛二（俳優・映画監督）
- ・ 大友 啓史（映画監督）
- ・ 阿部 和重（小説家）
- ・ 熊切 和嘉（映画監督）
- ・ 西村 義明（プロデューサー）

■受賞結果

- ・グランプリ： 『あるみち』（杉本大地・21歳）
- ・準グランプリ： 『ムーンライトハネムーン』（富永太郎・22歳）
- ・審査員特別賞： 『嘘と汚れ』（猪狩裕子・30歳）
『ゴロン、ボタン、キュー』（山元 環・22歳）、
『わたしはアーティスト』（藪下雷太・31歳）
- ・エンタテインメント賞（ホリプロ賞）： 『したさきのさき』（中山剛平・24歳）
- ・ジェムストーン賞（日活賞）： 『したさきのさき』（中山剛平・24歳）
- ・映画ファン賞（ぴあ映画生活賞）： 『したさきのさき』（中山剛平・24歳）
- ・観客賞： 『いさなとり』（藤川史人・30歳）
- ・日本映画ペンクラブ賞： 『いさなとり』（藤川史人・30歳）

■映画祭展開

① 東京国際映画祭

- ・特別提携企画

【ぴあフィルムフェスティバル「PFF アワード 2015」グランプリ受賞作品上映】

上記グランプリ作品の上映と、杉本監督と観客との質疑応答を実施。

- ・第2回 SAMURAI 賞授賞記念 ジョン・ウー監督スペシャルトークイベントに杉本監督が参加。

② バンクーバー国際映画祭

- ・招待部門： 『いさなとり』

『大村植物標本』（須藤なつ美）

③ ベルリン国際映画祭

- ・フォーラム部門： 『あるみち』

④ 香港国際映画祭

- ・招待部門： 『いさなとり』

『マイフォーム』（跡地淳太郎）

⑤ PFF 入選作品を中心とした8ミリ映画の海外巡回上映プロジェクトを実施

ベルリン国際映画祭、香港国際映画祭、PFFの3映画祭連携企画として、日本独自に発達した自主映画、特にPFF入選作品を中心とした8ミリ映画にスポットを当てた上映プロジェクトが2月のベルリン国際映画祭を皮切りに、3月の香港国際映画祭で2Kデジタルフォーマットで上映され、当時の創造的で個性豊かな映画作りが大きな反響を呼び、今後もアジア各国、北米、ヨーロッパの映画祭での上映を予定している。

上映作品：石井 聰互（岳龍）	『1/880000 の孤独』
塚本 晋也	『電柱小僧の冒険』
園 子温	『俺は園子温だ！』、『男の花道』
緒方 明	『東京白菜関 K 者』
山本 政志	『聖テロリズム』
諏訪 敦彦	『はなされる GANG』
平野 勝之	『愛の街角 2 丁目 3 番地』
手塚 眞	『UNK』『HIGH-SCHOOL-TERROR』

（５）平成 27 年度 ASEAN 文化交流・協力事業（アニメーション・映画分野）の実施

（文化庁の委託事業）

アニメーション及び映画分野において、日本を代表する高い技術と経験を持った一流の制作者達を、タイ・マレーシア・シンガポールの各国に派遣し、実践的なワークショップや専門性の高いレクチャーを行った。

【マレーシア】

「撮影照明ワークショップ」

① 講師：柳島克己（撮影監督／東京藝術大学教授）

② 日程

平成 27 年 11 月 25 日（水）撮影照明のマスタークラス [10 : 00-17 : 30]

（作品上映『ライク・サムワン・イン・ラブ』を含む）

平成 27 年 11 月 26 日（木）撮影照明およびグレーディングのワークショップ [10 : 00-18 : 00]

③ 場所

Pinewood Iskandar Malaysia Studios (PIMS)

- Powell Theater（撮影照明のマスタークラス、グレーディングのワークショップ）

- TV Studio01（撮影照明のワークショップ）

④ 参加者

受講生：32 名

受講生の所属：

Multimedia University（Faculty of Cinematic Arts）24 名

LASSALE College of the Arts（Faculty of Media Arts）8 名

オブザーバー：

Malaysian Society of Cinematographers 14 名

※オブザーバーとして参加したのは、マレーシアの映画業界で働くプロフェッショナルである。

【シンガポール】（映画分野）

「映画マスタークラス」

① 講師：宮島竜治（映画編集者／東京藝術大学非常勤講師）

② 日程

平成 27 年 11 月 28 日（土）[10：00-20：00]

（作品上映『ウォーターボーイズ』を含む）

③ 場所

LASSALE College of the Arts 4F 講義室

④ 参加者

受講生：LASSALE College of the Arts（Faculty of Media Arts）学生 26 名

【シンガポール】（アニメーション分野）

「アニメーションマスタークラス」

① 講師：りょーちも（アニメーター／キャラクターデザイナー／アニメーション監督）

② 日程

平成 27 年 11 月 28 日（土）[10：00-20：00]

（作品上映『鉄腕バーディー-DECODE』、『夜桜四重奏～ハナノウタ～』を含む）

③ 場所

LASSALE College of the Arts 5F 講義室

④ 参加者

受講生：LASSALE College of the Arts（Faculty of Media Arts）学生 35 名

オブザーバー：CACANi 社（本節 1-4-4 参照）の専属アニメーターら 3 名

【タイ】

「アニメーションブートキャンプ 2015 ASEAN」

① 講師：

京極義昭（アニメーター、演出）

後藤隆幸（アニメーター、キャラクターデザイナー／株式会社プロダクション・アイジー）

佐藤好春（アニメーター／日本アニメーション株式会社）

② 日程

平成 27 年 12 月 19 日（土）～20 日（日）

③ 場所

Silpakorn University Wang Tha Phra キャンパス

④ 参加者

人数：25 人

参加者の所属：

Silpakorn University（シラパコーン大学）13 名

Chiang Mai University（チェンマイ大学）1 名

Kantana Institute（カンタナ・インスティテュート）2 名

King Mongkut's University of Technology Thonburi (モンクット王工科大学トンブリー校) 2 名
 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (モンクット王工科大学ラートクラバン校) 1 名
 Mae Fah Luang University (メーファールアン大学) 1 名
 Mahidol University (マヒドン大学) 1 名
 Rangsit University (ランシット大学) 1 名
 Srinakharinwirot University (シーナカリンウィロート大学) 1 名
 Sripatum University (スィーパトゥム大学) 1 名
 University of the Thai Chamber of Commerce (タイ商工会議所大学) 1 名

【情報発信】

(1) 海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database(JFDB)の運営

(国際交流基金との共同事業)

日本で唯一の日英バイリンガルの日本映画オンラインデータベースの運営を、前年度に引き続き行った。平成 27 年に日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、269 本を新規掲載した。

■現在までの掲載作品数

公開年	掲載作品数
平成 13 年	7 本
平成 14 年	42 本
平成 15 年	119 本
平成 16 年	139 本
平成 17 年	117 本
平成 18 年	224 本
平成 19 年	292 本
平成 20 年	372 本
平成 21 年	358 本
平成 22 年	408 本
平成 23 年	368 本
平成 24 年	399 本
平成 25 年	356 本
平成 26 年	365 本
平成 27 年	269 本
合 計	3,835 本

(2) 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布（文化庁の委託事業）

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、平成 27 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

■Japanese Film 2016 の概要

- ① 配布数：2,500 部
- ② 配布先：カンヌ、アヌシー、トロント、プサン、TIFFCOM（東京）、アメリカン・フィルム・マーケット（ロサンゼルス）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品：選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

(3) 平成 27 年度 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品（文化記録映画部門）及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者（映画功労部門）に対する顕彰を行った。また、日本映画の製作者と観客をつなげるための活動を促進するべく、国内外の現状と展望を広く紹介することをテーマにした全国映画会議を実施した。

■文化庁映画賞

- ① 贈呈式
 - ・日程：平成 27 年 10 月 22 日（木）20 時 30 分～
 - ・会場：グランドハイアット東京「コリアンダー」
- ② 文化庁映画賞 受賞記念上映会
 - ・日程：平成 27 年 10 月 25 日（日）11 時 40 分～
 - ・会場：神楽座
- ③ 平成 27 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作
 - ・文化記録映画優秀賞
 - 『「生命の誕生」～絶滅危惧種日本メダカの発生～』
監督：豊岡定夫 製作：映像計画研究所
 - 『抱擁』
監督：坂口香津美 製作：株式会社スーパーサウルス
 - 『未来をなぞる 写真家・畠山直哉』
監督：畠山容平 製作：豊岡劇場/SIB 合併会社

④ 平成 27 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

- ・飯塚 貞雄（化学合成）
- ・上田 正治（映画撮影監督）
- ・大橋 富代（映像編集）
- ・島田 忠昭（映画照明）
- ・白井 久男（アニメーション撮影）
- ・林 基継（録音・整音）
- ・松本 正道（映画上映・普及）
- ・吉田 晴美（映像美術・大道具）

■全国映画会議 シンポジウム-MOVIE CAMPUS-

- ・日程：平成 27 年 10 月 24 日（土）
- ・会場：神楽座

① 第一部 『怪獣から KAIJU へ』

- ・大森一樹（映画監督/大阪芸術大学芸術学部映像学科長）
- ・金子修介（映画監督）
- ・富山省吾（日本アカデミー賞協会事務局長/前株式会社東宝映画取締役社長/プロデューサー）

モデレーター： 井上伸一郎（株式会社 KADOKAWA 代表取締役専務 執行役員）

② 第二部 上映『大怪獣決闘 ガメラ対バルゴン』